

## 第6回 地震火山こどもサマースクール ~霧島火山のふしぎ~

## Wonders of the Kirishima Volcano: The 6th Schoolchildren's Summer Course of Seismology and Volcanology

井村 隆介 [1]; # 清水 芳恵 [2]; 地震・火山こどもサマースクールインストラクター・作業部会・実行委員会一同 井村 隆介 [3]

Ryusuke Imura[1]; # Yoshie Shimizu[2]; Ryusuke Imura Working group for Schoolchildren's summer course of seismology and volcanology[3]

[1] 鹿大・理・地球環境; [2] なし; [3] -

[1] Earth and Environmental Sci., Kagoshima Univ.; [2] none; [3] -

## \* 要旨

2005年8月19・20日の2日間、霧島火山周辺の御池少年自然の家・えびの高原などを会場とし、一般から募集した児童・生徒を対象として表記のサマースクール（主催：社団法人日本地震学会，特定非営利法人日本火山学会）を企画・実施したので報告する。なお，詳細な情報とスタッフ名簿については，<http://sk01.ed.shizuoka.ac.jp/koyama/kirishima/>を参照してほしい。

## \* 経緯と企画概要

日本地震学会と日本火山学会などは，“第6回地震・火山こどもサマースクール～霧島火山のふしぎ～”を宮崎県で開催した。この催しは，1999年函南町の丹那断層，2000年北海道の有珠山，2001年伊豆大島，2003年富士山，2004年神戸六甲山をフィールドに，主に地元の児童・生徒を対象として開催してきたものである。いずれも過去に大きな自然災害に見舞われた土地であり，被災地で児童・生徒によりよい地震・火山教育を行いたいというのが企画の目的であった。今回は近い将来に噴火する可能性のある霧島火山において，霧島が火山であること，噴火するとどんなことが起こるのか？などを「霧島火山のふしぎ」と題して理解してもらうことを目的とした。これら一連の企画の教育方針や実施上の工夫は，次の通りである。

- 1) 第一線の専門家が，こどもの視点にまで下りて，地震・火山現象のしくみ・本質を直接語る。
- 2) 災害だけでなく，災害と不可分の関係にある自然の恵みを伝える。
- 3) 初めから解答を与えてしまうのではなく，まず課題を与えて考えさせ，与えた材料を有機的に結びつけることによってこどもが自分なりの答がみつけれられるようにリード・サポートする。

## 霧島火山のふしぎ

小学校5年生から中学2年生までの児童・生徒，大きな子供として大学生，大学院生が日本各地から21名参加した。企画・運営には全国よりボランティアで研究者・教師・学生などが23名参加した。

8月19日宮崎県都城市へ集合し，開講式とオリエンテーションを行い，御池火口湖で次にあげたような「霧島火山のふしぎ」さがしをした。

- 1) 霧島火山はどこにあるの？
- 2) なぜ小さな火山があつまっているの？
- 3) 大きなくぼ地と小さなくぼ地があるのはなぜ？
- 4) 湖や池のふしぎ（山の上にある水はどこからくるの？）
- 5) 御池のふしぎ（どうして山のふもとに湖があるの？）
- 6) 山のかたちのふしぎ（平べったい山，三角の山，丸い山など変なかたちをした山が多いのはなぜ？）
- 7) ふもとのどこにでもある白い壁はなに？どうやってできたの？

その後，食材を使った火山学実験を行い，降雨体験車をつかった豪雨体験もおこなった。

8月20日午前中はえびの高原で野外での観察・実習を計画していたが，雨のために一部計画を変更した。午後はえびの高原エコミュージアムでパネル・ディスカッションを行ない，「霧島火山のふしぎ」に対するこども達自身で考えた回答を参加者が発表した。

その後，閉講式を行った。閉講式では参加者全員に“なまず博士”の認定証を授与した。